

デイケア通信 1月号



介護老人保健施設
オキドキ

臨時利用・振替利用 随時受付中!!
デイケア利用時にお休みした場合は、他の曜日に振り返りようが出来ます。また、「ご家族様のご都合などで、予定外に利用したい時など、臨時利用もできます。遠慮なくご相談下さい」(TEL 〇四二二五九六〇一〇二二)

謹賀新年

新年、明けましておめでとございます。旧年中は、私ども珠泉会の各種サービスをご利用頂き、心より感謝申し上げます。未だ新型コロナウイルス感染症の出口が見えない中、私どもの各事業所におきましては、一日でも早く平穏で健やかな日常生活を取り戻すことが出来るよう、盤石な感染防止策を講じると共に、その先を見据えた法人運営活動を積極的に展開して参る所存です。

新年を迎えるにあたり、みなさま方の健康と幸福、そして新たな夢と希望がもたらされますよう、心よりお祈り申し上げます。
令和四年一月元旦
医療法人社団珠泉会 統轄本部CEO
理事長 市村義久

お雑煮について

お正月におせちとともに必ず食べられるのがお雑煮。どつて元旦に、お雑煮を食べることになったのか。今回は、お雑煮についてご紹介します。
お雑煮の起源をたどると諸説ありますが、「お雑煮」として食べられ始めたのは、室町時代の宮廷での婚礼や行事で食べられていたものでした。その後、江戸時代に京都で白味噌仕立てのお雑煮が食べられるようになり、全国的に広がりしました。そして、現在のように鶏肉や鴨肉などの具材が使われ、醤油仕立ての味付けも加わったのは明治時代に入ってから禁止されていた肉食が解禁されたからです。
お雑煮は、年中行事で年神様(歳神様)に供えた餅や里芋、にんじん、大根などを、その年の最初に井戸や川から汲んだ「若水」と、新年最初の火で煮込み、元旦に食べたのが始まりと言われています。
「若水」は、元旦に初めて汲まれた水のことです。一年の邪気を祓うもの。そして年男とは、正月行事を取り仕切る人のこと。だいたいは家長が務め、若水を汲む「若水迎え」も年男の役割でした。
お雑煮を食べることにより、昨年の収穫や無事に感謝し、新年の豊作や家内安全を祈るのです。



お雑煮のお餅の形や具、味付けに関しては各地域さまざまです。お雑煮のお餅の形にも意味があり、お餅は良く伸びるので「長く生きる」という長寿の意味も込められています。関西地方で食べられる「丸餅」丸にすることで円満の縁起を担いでいます。関東地方で食べられる「角餅」ですが、江戸時代、人口が集中していた関東周辺では、ひとつずつ手で丸める丸餅よりも、一度に多く作れる角餅が使われるようになったからと考えられています。角餅を作る過程で、つきたての餅を伸ばした餅は「のし餅」と言います。これも「敵をのす」とい意味で、その昔、戦いの前に角餅のお雑煮を食べたと言われています。
また、具材は大根やにんじん、ネギなどの一般的な野菜の他にはその土地柄を感じさせる産物が入ります。武家文化の強い関東では小松菜や鶏肉を入れ「菜鶏」(名取り)とし、敵の大将の首を取って名乗りをあげるようにとの心意気を感じられ、一方、京都では「欠の頭」になって過「せ」せるようにとの願いを込め、頭芋(かしらいも)を入れます。

1月7日 昼食にご提供!



写真はあくまでイメージです。

領収書の送付について
昨年中に振込でお支払いされた皆様には、当該分の領収書を送付しますので、「ご確認下さい」。
なお、利用料のお支払いは毎月十五日までとなっておりますので、期日までにお支払い下さい。尚、窓口でのお支払いは年中無休、午前九時から午後四時の間となっております。

今年も頑張ります

昨年は、当施設のデイケアをご利用頂き誠にありがとうございました。本年も更なるケアサービス向上を目指し、職員一同頑張っておりますので、宜しくお願い申し上げます。



介護老人保健施設オキドキ
デイケア職員一同

1月の主な予定

- 7日 (金) 洋食めぐり
マカロニグラタン
- 10日 (月)
- ~14日 (金) 体重測定
- 11日 (火) おやつ:お汁粉
- 17日 (月) ご当地:石狩鍋
- 19日 (水) お楽しみ献立
- 27日 (木) セレクト食



お正月に肉は食べない

お正月の三が日に四足(よつあし)を食べてはいけないと耳にします。
それは、奈良時代からのならわしによるもので奈良時代以降、日本では元旦から三日までの間に「四足動物」(牛、豚、馬)を食べることを禁じていました。その理由として考えられているのは二つの説です。
一つは、正月に四足歩行の動物を食べることを禁止していた仏教の教えに基づくというもので、仏教は、基本的には殺生を禁止しているため、昔は肉食が禁止されていた時期もありました。現在では僧侶も普通に肉を食べていますが、修行の時などは食べないということもあります。
そして、もう一つは天武天皇が六七五年に僧侶に肉食禁止令を出してから神や仏に捧げるものから肉類が排除されたというものです。
お正月は歳神様が新年の幸福をもたらすためにやってくると言われているため、神様へのお供えものという意味のある「おせち」や、自分たちが食べる食事でも肉を避けようという考えになったと思われれます。
しかし、すべての肉料理が禁じられたわけではありません。二足動物(鶏)は食べてもよいのです。おせちの中に入れることが多い筑前煮の中やお雑煮の中には鶏肉が入っています。
最近ではおせちにも牛肉などが使われていたりしますが、昔からのものは豆や卵、海のものなどの料理で、肉は使われていません。